

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

せい がん
誓 願

平成28年1月第3週放送

新年を迎えて三週間が過ぎようとしています。初詣はつもうでに神社仏閣をお詣りまいされた方も多いことと存じます。

お詣りの際には、さまざまな願い事をなされたことでしょうか。家族の健康や安全を願ったり、試験の合格を願ったり、良い出会いを願ったりと、日本では昔から、人々のさまざまな思いを受けとめてきた神社仏閣がたくさんあります。また、その願いが成就じょうじゆした際に、お礼として再びお詣りする「お礼参りれいまい」という習慣もあります。

神仏しんぶつにすぎるしか方法の無い時代には、願いが成就じょうじゆするか否かは死活問題だったことも多かったでしょう。

現代でもこの習慣は引き継がれ、この仏様にはどんな御利益があるかとか、この神様は縁結びに効くなど、情報が溢あふれています。

さて、神仏に願い事をする際に、気をつけなければならない事があるのではないのでしょうか。

自分は努力も何もせずをお願いをするだけだったり、願いが成就しなかった際に心を乱したり、時には人をおとしめるような事を願ったりと、自分勝手に都合の良い事だけをお願いするのはいかがなものでしょう。

“誓ちかい”、“願ねがう”と書いて「誓願せいがん」という言葉があります。辞書には「神仏ちかに誓ちかいをたてて、事の成就じょうじゆを願うこと」とあります。「願いが叶かなうように私はこのような努力をしますと神様や仏様に誓う」といった事でしょうか。

仏教では、仏ほとけさまや菩薩ぼさつさまが私たちが救おうとしてたてた誓ちかいと願ねがいのことを「誓願せいがん」といいます。菩薩さまは、その願いが叶うまで私たちのそばに寄り添って行こうとする誓願せいがんをしているのです。

大切なのは、全すべてをただお任せまかするだけではなく、自らも真摯しんしにとりくむ事を神仏に誓いをたてて努力をし、その成就を願うという事なのではないのでしょうか。

— 終 —